

富士フィルムと日本マイクロソフト

革新的な医療現場支援の実現に向けた協業を開始

富士フィルムの内視鏡予知保全サービスの基盤として Microsoft Azure を採用

2019年6月20日

富士フィルム株式会社

日本マイクロソフト株式会社

富士フィルム株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長:助野 健児)と日本マイクロソフト株式会社(本社:東京都港区、代表取締役 社長:平野 拓也)は、革新的な医療現場支援の実現に向けた協業を開始します。本協業の一環として、富士フィルムは、2019年中にスタートするAI・IoTを活用した内視鏡予知保全サービスのクラウド基盤に、マイクロソフトのパブリッククラウドプラットフォーム Microsoft Azure を採用します。富士フィルムのIoTおよびデータ分析AI技術と、Microsoft Azureのリアルタイムでの大容量情報処理能力を組み合わせ、医療機関で稼働している内視鏡の予知保全サービスを実現し、メンテナンス作業の効率を大幅に向上させ、革新的な医療現場支援を推進します。

昨今、欧州をはじめとし、グローバルで厳格化する個人情報保護規制などへの対応が重要となっています。このビジネス環境下、富士フィルムは、世界54リージョンで提供されているMicrosoft Azureが、各国における法規制に対応しており、高いセキュリティを備えていること、またグローバルなビジネス展開を進める上で、事業展開を支援する体制を備えていることを評価いたしました。

富士フィルムは、医療用内視鏡システムを世界中の医療機関に提供しています。ここ数年、その需要は拡大しており、医療現場で内視鏡システムを常時適切に稼働させるため、保守サービスの拡充にも注力しています。内視鏡システムから得られたスコープなどの稼働情報をクラウド基盤に集約し、それらをAI技術で解析。内視鏡の使用状況や故障の可能性等を遠隔からモニターできる革新的な内視鏡予知保全サービスを2019年中にグローバルで展開していく予定です。今般、この新たな内視鏡予知保全サービスのクラウド基盤として、Microsoft Azureを採用します。なお、富士フィルムは今後、内視鏡以外の医療機器にもこの予知保全サービスを展開する予定です。

富士フィルムは、医療画像診断支援、医療現場のワークフロー支援、そして医療機器の保守サービスに活用できるAI技術の自社開発を進め、これらの領域で活用できるAI技術を、“REiLI(レイリ)”というブランド名称で展開しています。これらの領域の中でワークフロー支援については、より迅速に医療現場のニーズに適したソリューションを提供していくために、自社のAI技術に加えて今後、言語・検索に関するマイクロソフトのAI技術を活用することを視野に入れ、日本マイクロソフトと連携を進めます。

富士フィルムと日本マイクロソフトは、IoTやAI技術を活用することで、医療現場の様々なニーズやワークフローに適したソリューションを提供し、医療現場を支援するとともに、患者の満足度向上と健康維持に貢献します。

報道関係者からの問い合わせ先

富士フィルム株式会社 コーポレートコミュニケーション部 TEL:03-03-6271-2000

日本マイクロソフト株式会社 コーポレートコミュニケーション本部 石井 TEL:03-4535-8055(部門代表)